



# 名古屋いのちの電話

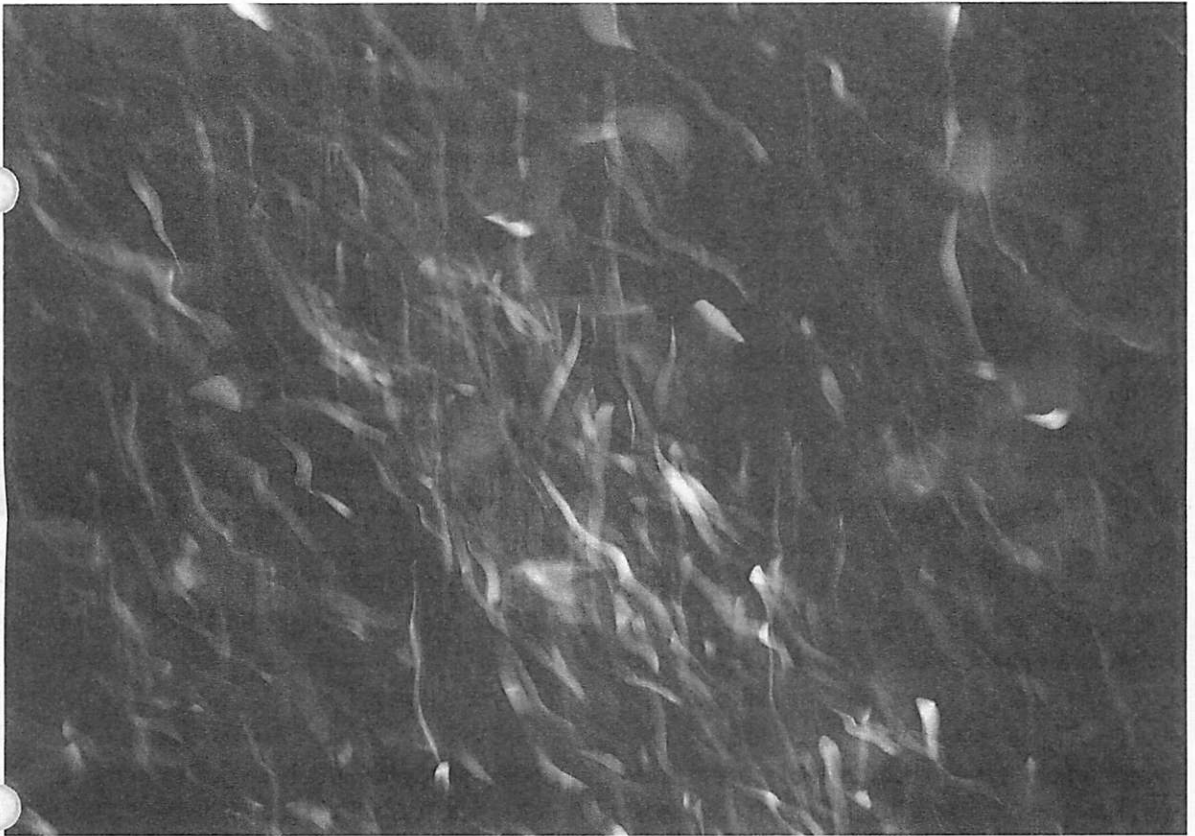


写真 服部 真由子

雨

谷川 俊太郎

幾千幾万の水の子どもたち

跳ねまわる 踊っている

笑いながら 叫びながら

数限りない水の子どもたち

空から解き放たれ

地上に着いた嬉しさに

雷のティンパニ 風のチェロ

いなくすまのシンバル しずくのピッコロ

この音楽の指揮者はいったいどこにいる

のだろう

谷川俊太郎詩集

「魂のいちばんおいしところ」

株式会社サンリオより



## 苦しみを共有する覚悟をもって

—今がつらいと思うあなたに—

名古屋市自殺対策連絡協議会委員  
愛知県自殺対策推進協議会委員  
岐阜県自殺総合対策協議会委員

花井 幸二

はじめに命ありき…

「人はなぜ死んではいけないのでしょうか?」

それは、希望もなく、こんなにもつらく苦しい人生を「人はなぜ生きなければならないのでしょうか?」といった問いかけにも似ている。しかしながら、自死の既遂者は、既に一つの答えを自らの結論として出している。そして、その遺されたものたち、つまり自死遺族は、その問いをひたすら自問自答し、終わることなく毎日問い続けているのである。

もちろん、答えなど出てこない。

ある人は無神経にも言う、「もし人が自ら死を選べば、遺された家族はいかに大変な思いをするか、どんなにか苦しい気持ちでいるのかを、遺族を見れば容易に分かるだろう。もっと自死遺族の声を世に出して、その状況を宣伝すべきだ」と。しかし、遺族の苦しみは、愛すべき人を失った悲しみだけではない。いまだ存在する自死への社会的偏見に苦しみ、自らの無力さに愕然とし、「すぐにでも後を追わなければならないのではないか」という壮絶な葛藤を抱え、激しい自責の念とやり場のない怒りを繰り返す毎日を送っているのである。

先に述べたように、遺された遺族の悲惨さを強調することだけで、命の大切さを訴えることは、単に遺族の哀しみを踏み台にしているだけであり、人の命の救済に何の解決も与えない。

遺族の苦しみや悲しみを分かち合えない社会は、今まさに消えゆかんとする命どころか、切なく懸命に生きている遺族の心情すら救えない無力な社会だと断言できる。では、人は絶え間なく襲い来る死への誘惑に、どう向き合えばいいのだろうか?

自ら命を絶つこと

昨年(2008年)の自殺者数は3万2249人(警察庁2009年5月14日発表)。1998年以来11年連続で年間の自殺者数が3万人を超えている日本。1日で88人も日本人が、自ら命を絶つていることになる。

一方、世界ではどうであろう。世界の自殺者の数が毎年約100万人に上ることが、英国とベルギーの調査結果で先頃明らかになった(2009年4月16日付ロイター)。これは、40秒間に1人の割合で自殺者が出ていることになる。

凄まじい数字である。実際は、先に挙げた社会的偏見や遺族への配慮などがあり、実数はさらに大きな数字であることが容易に想像がつく。また、未遂者を含む自殺の可能性を否定できないものを入れると、途方もない悲劇的な数字が浮かび上がる。

今まさに世界中の人が、生きる意味を求めているといえる。しかしながら、人は生きる意味を求める一方で、死を選択しているのである。確かに、人は生まれると同時に、死に向かっていると言っても過言ではない。死は、誰もが等しく約束されたひとつの真実なのである。ところが、私たちは最も根本的なこの「生と死」の問題から、実は目を背け続けて平凡な日常を、生きているのではないだろうか。

だから、今さら他人から「絶対死んではならない」とか「一生懸命生きなさい」といわれても、死を決意した心には響かないのです。いやむしろ、ありきたりな「生」への押しつけが、逆に「死」を選択させてしまうのかもしれない。

「死の否定と生への強制」は、不条理で欺瞞に満ちた人間社会そのものであり、生きることに疲れた人にとっては、それはまさに真逆な「生の否

定と死への強制」になりかねないのである。

人は弱い存在なのだから…

こころの体力が衰えてしまい、自分で感情や行動のコントロールが効かなくなることは、誰にだってある。ちゃんと、自分なりには頑張っているのに、なかなか上手くいかないことなどは、世の中には沢山ある。

ところが自分の中で、もう頑張れないと諦めたとき、採るべき選択肢を豊富にもっている人など、そんなにはいないだろう。その人が、まじめで責任感があり、他人に優しく思いやりのある人ならば、なおさらである。しかし誠に残念ながら、結果として、そういう人こそが自死に至る事例が多く、多くの遺族を苦しめているのである。

うつ病になってしまう人も、そうなのだろう。家庭や職場、学校での人間関係に思い悩み、ストレスに押しつぶされ、ついには自らの心が壊れてしまう。

人間は決して強い存在ではない。むしろ、弱い存在なのだと、皆が理解しなければならない。苦しみ悩んでいる人は、今この時が苦しいのである。この世の中には「苦しみから逃れるための死」という誘惑が存在する、ということをおぼえてはならないのである。だから、先に示したように、今苦しんでいる人に「頑張って生きよう！」は「さらに苦しめ！」にしか聞こえなくなってしまうのである。

生きる苦しみと命の大切さ

厚生労働省の発表によると、2007年時点における日本人の平均寿命は82.59歳（男性が79.19歳、女性が85.99歳）という。今がつかく苦しい人にとっては、高齢長寿社会なんぞは、さらに続いていく苦しみの延長時間にしか感じられないだろう。苦しいだけの人生ならば、あと何十年もある残りの人生がとても嫌になる。自分のような人間が、生きていて何か役立つのだろうか、つらいことを悩み苦しむのです。

もちろん、「命は大切なもの」。それは誰もが知っている当たり前のこと。当然、死を決意する者たちも、皆十分に知っている。ただ、死を急ぐ者たちが最も知りたいのは、「命の大切さ」の真実なのです。

もう自分の人生を、頑張って生きることに疲れてしまった。その一方で、生きる意味は分からなくても、死はすべての人が間違いなく向かっている行き先なのだ、ということは理解している。不条理で不確実な実社会に身を置くことは、誰もが不安ではないのだが、自分で実感できる唯一確実なものが、自分の死だけというのはあまりにも寂しい現実である。

生きとし生けるものとして、すべての人が命の実感をもつことが必要

今、多くの人々が『生きている実感がない』という。ところがそれは、『死への実感もない』のと同じ事なのです。確かに、私たちは『命の実感』を持つことが難しい社会で生きているのかもしれない。

なぜ苦しくとも、生きねばならないのか。どうして人は、自殺を止めさせようとするのか。

苦悩する者達は、間違いなく真実の言葉を求めている。ただ残念ながら、私は死を決意した人の心を変えるほどの力を持ち合わせてはおりません。但し、苦しみを共有する覚悟は持ち合わせています。

私たち自身が、人の死を止めたいなら、「生への実感」を自ら感じる必要があります。これまで、私たちの社会が見て見ないふりをしてきた、人間の「生と死」の問題に対し、皆が真剣かつ正直に向き合う決意と覚悟を持たなければならないのだと思います。そうでなければ、死を悟る者と真剣に対峙するという事など、出来るはずがないのです。

真っ暗な暗闇にさまよいながら、歩くことに疲れた人が欲しいものは、遠い未来の希望の光ではありません。自分が今いる、この足元を照らしてくれるほんの小さな灯り、あなた自身が持っているほんの小さな心のともし火なのだと思います。

今がつらいと思うあなたに伝えたい。

私たちは、苦しみを共有する覚悟を持っているということ。

(1)メンバー名古屋自死遺族の会 代表幹事)

※僕はいつも傾聴させてもらうときに、次の相田みつをさんの言葉を、心で繰り返しています。(12頁に掲載)

## 2008年度 事業報告

2008年度も愛知いのちの電話協会の電話相談活動に、多くの方々から温かいご支援とご協力を賜りました。心より感謝申し上げます。またこの一年間、相談活動が一日の休みもなく続けられましたのも、相談員の方々のたゆまぬご奉仕のお蔭と改めて敬意と謝意を申し上げます。

1985年の開局以来、381,008件の電話相談を受信いたしました。2001年からは厚生労働省の補助事業として、自殺防止のフリーダイヤル週間が始まって、7年目の2008年度は毎月10日に施行されることとなりました。ここ11年、年間3万人の自殺者をだしてあり、その防止対策ということで全国的な取り組みとして、いのちの電話の果たす役割が非常に高まっていることの表れかと思われまます。こうした利用者からのニーズに対応していくために、2007年12月には電話回線を1本増やして3回線フル活用で当たることになりました。これを達成するためには、電話相談員の増員ということがあります。そのために「電話相談ボランティア養成講座」の見直しがあり、2005年の15期養成講座からは、一年研修で講座を修了し、その後にも更にもヶ月の実地電話相談研修という新しい取り組みがはじまりました。2008年9月には17期生の相談員として35名が認定されました。その養成に携わってくださった、先生方と養成スタッフのご努力で多くの相談員の育成が可能となり、更に養成の趣旨と方式で続行された18期生は、2009年2月には18名が修了し、その後のインターン研修にはいり順調に進んでいます。

また2010年は、名古屋いのちの電話開局25周年を迎える節目の年となります。その記念行事も企画委員会を中心に準備を進めております。

### 養成委員会



委員長 水谷 たかし

第18期の入門講座は30人で始まった。後期講座へは23人が進み、2月19日、18人が終了式を経て6ヶ月のインターン研修に入っている。この4年間には、①先輩スタッフによる集団指導 ②電話対応モデルによる研修 ③モニター研修 を3本柱とするカリキュラムを採用し、定着してきた。

この数年、全国の電話相談はセックスコーラーと電話依存症のマニアに時間を独占されるのが悩みであったが、名古屋でもいのちの電話本来の目的を取り戻すよう養成講座の内容を組み変えてきた。

ところで、このごろの年3万人余の自殺者の80%はうつ病と考えられるが、それならば精神病理を学んで電話に応用するかといえば無理である。電話というメディアで治療ができるはずはない。古典的な来談者中心療法で、それも1時間ばかりで相手の人格変容を実現するのは不可能である。傾聴反復を繰り返していると相手はおちよくられていると感じて怒り出すこともある。

いのちの電話創設の願いは「よき隣人」になることであった。死を決心して、最後にこの世に何か自分の存在を残しておきたいという気持からわれわれの電話につながったとしたら、たとえ引き止めることができなくてもこの世の思い出にあたたかい人間の声が聞けてよかったと思ってもらえたらそれでいい。医療知識や応対技術、聞き役に徹する技術に追われてきたような気がする。話し合えてよかったと思われるような「よき隣人」、本当はそれが一番むづかしい人間性の修練という養成課題である。実は20年も続いている継続研修こそがそのための誇るべき伝統なのである。

## 相談委員会

委員長 兼田 智彦

相談委員会は、ワーカーズグループのスタッフ（環境改善グループ、担当編成グループ、カルテの会、緊急連絡員グループ、統計係、ベルの会、事務局の代表者）が集まり以下の仕事を行いました。

- ① 電話相談の高い質を保つために、登録した電話相談員 187 名が、年 1 回の登録更新研修会をはじめとして、継続研修は 18 のグループに分かれて毎月行いました。さらに、各相談員が年 1 回のスーパービジョンを行うとともに、相談員がだれでも参加できる公開講座を実施しました。
- ② 電話相談を受けて心理的なサポートが必要になる相談員のケアとボランティアを続けていただくためのサポート。
- ③ 電話相談の担当を 24 時間 365 日休みなく続けるためのシフトを組む担当編成の仕事は、担当編成グループと各継続研修が分担して行っています。この仕事が無ければ、円滑な担当が行えません。おかげで、相談件数がこれまでの最高の 25,964 件となりました。
- ④ 電話相談が快適に行えるための施設の清掃と環境改善は環境改善グループが行っています。清掃は各継続グループも分担して行っています。2008 年度は相談室の環境を改善するため、エアコンの更新・大掃除・掲示の張り替え・トイレの一部の塗り替え・不要物の廃棄などを行いました。

## 広報委員会

委員長 安藤 和彦

広報委員会の仕事は、①年 3 回の機関紙「名古屋いのちの電話」の発行 ②資金づくりと協会の活動 PR のためのチャリティ・イベント ③賛助会員と相談員宛に手作りの誕生日カードの発送 などが主な柱になっています。

機関紙は 71 号から 73 号までの 3 号を発行しました。紙面には日頃名古屋いのちの電話の活動にご協力いただいている評議員や継続研修の講師などの方々に、生命観の形成の関する考察、愛知県の自殺対策、子どもの発達障害や DV 相談の対応、ナラティブ・セラピーの方法論など、それぞれ専門分野からの発言や報告を寄稿していただきました。73 号（09 年 3 月）からは年間のシリーズ企画として、特集「なぜ死んではいけないのですか？・・・」をスタートさせました。深刻な自殺問題について、3 号連続で多角的に考えてみようとする試みです。これからの紙面にどうぞご期待下さい。

チャリティ・コンサートは 11 月 29 日、岐阜市出身のシャンソン歌手・遠藤伸子さんのリサイタル「歌は私の祈り」を開催しました。お馴染みのクリスマス・ソングやシャンソンの名曲の数々を歌いあげる遠藤さんの熱唱に、小さい会場ならではのライブの楽しさをたっぷり味わうことができました。

一つ懸念されるのは、コンサートのチケット販売が年々漸減傾向にあることです。わずかな制作費で魅力的な企画をとという難しい課題を背負っているわけですが、時代の趨勢として善意の協力が多くを依存するチャリティ・コンサート自体を見直す時期に来ているのかもしれない。

## 財務委員会

委員長 田中正樹

日頃名古屋いのちの電話の財政を支えてくださる賛助会員、法人の各関係者に感謝申し上げます。

2008年度の決算と、今年度の予算を報告申し上げます。

2008年10月、アメリカの金融危機を発端に世界的な不況が波及し、我が国も例外ではなく事態は深刻な状況になりました。雇用問題、景気の先行きが不安な時代を迎えています。こうした社会情勢を反映し、収入の部では予算対比では85%に落ち込みました。その顕著な変化は、養成講座の受講料で、ここ数年続いた多数の応募者が激減したことにあります。その傾向は今年度にも見られると考え、予算面では前年度より100万円の減額でたてております。賛助会費、寄付金の合計も前年度より25%減で、大変苦しい状況です。

一方支出面では事務費一般を極力削減し、予算対比では74%にとどめ、収支のバランスを押さえる努力をしました。今年度の予算面では大きな変動をみず前年度とほぼ同じにたてています。

社会経済の不安な中に、ここに寄せられる電話相談件数も増加し、大幅に深刻さが増しております。利用者のこうした要求に電話回線がフル活用できるようにと、2007年12月からは3回線に増やしその対応に努めております。こうしたボランティアの活動を可能にし続けられますのも、ご寄付くださった皆様方のご支援の賜物と、この紙面を借りて感謝申し上げます。

## 総務委員会

委員長 植田 望

2008年の1年間に全国で自殺した32,200人のうち、30代の自殺者は4,850人で過去最多となり、生活苦での自殺者も増加している。

名古屋いのちの電話は24時間365日、相談電話を取り続けて24年になります。相談員と運営にかかわる組織が車の両輪となって、いのちの電話を支えています。

いのちの電話は、養成・相談・財務・広報・総務の5つの委員会及びベルの会（相談員全員参加の会）・友の会（OB会）によって構成されています。事務局がこれら実動部隊をとりまとめる実務を担当しています。最近の新聞紙上でも自殺問題は大きな社会問題として取り上げられ、愛知県や名古屋市も本腰を入れて取り組むなかで、名古屋いのちの電話も組織として行政や他機関との関わりが増大しています。必然的に事務局の業務はそれら対外的な業務との関係が増加しています。

総務委員会の役割は「組織全体にかかわる内容を把握し事務局を支えながら、名古屋いのちの電話が円滑に運営されるための裏方の役割」と認識しています。

総務委員会は定期的に開催され、日常業務に関わる諸問題について事務局長を支えて、意見交換や調整を行ない、事務局の業務がとどこおりなく遂行できるようお手伝いをしています。

来年は名古屋いのちの電話が創立されて25周年を迎えます。25周年記念行事を行う委員会も発足し動き出しました。事務局は日常の業務に合わせて25周年記念行事の裏方を受け持つこととなります。皆様方のご支援とご協力をよろしく申し上げます。

## 2008 年度収支計算書

単位：円

科 目	決 算 額
(貸方) 収入の部	
助成金	900,000
賛助会費 (A)	860,000
賛助会費 (B)	480,000
賛助会費 (C)	336,000
会費 (法人)	2,330,000
寄付金 (個人)	3,220,490
寄付金 (法人)	1,078,753
年末募金	857,000
登録更新料	227,000
講座受講料	1,466,000
受取利息	1,590,258
雑収入	1,680,189
当期収入合計 (A)	15,025,690
前期繰越	12,849,526
収入合計 (B)	27,875,216
(借方) 支出の部	
事業費	
研修費	2,733,444
広報費	436,560
連盟分担金	377,000
(事業費合計)	3,547,004
管理費	
人件費	5,104,750
需要費	
法定福利費	60,000
旅費・交通費	800
家賃	2,898,000
共益費	-
光熱水道費	600,154
営繕費	163,485
賃借料	332,997
通信費	359,234
文具印刷費	47,958
消耗品費	186,704
雑費	231,250
東海地震対策費	-
25周年記念事業準備金	2,000,000
(管理費合計)	11,985,332
当期支出合計 (C)	15,532,336
当期収支差額 (A) - (C)	△ 506,646
次期繰越 (B) - (C)	12,342,880

## 2009 年度予算

単位：円

科 目	予 算 額
(貸方) 収入の部	
助成金	800,000
賛助会費 (A)	1,000,000
賛助会費 (B)	600,000
賛助会費 (C)	400,000
会費 (法人)	2,500,000
寄付金 (個人)	2,000,000
寄付金 (法人)	1,500,000
年末募金	1,000,000
講座受講料	2,500,000
受取利息	1,200,000
雑収入	50,000
当期収入合計 (A)	13,550,000
前期繰越	12,342,880
収入合計 (B)	25,892,880
(借方) 支出の部	
事業費	
研修費	4,000,000
広報費	600,000
連盟分担金	320,000
諸会費	10,000
調査研究費	30,000
会議費	20,000
(事業費合計)	4,980,000
管理費	
人件費	5,200,000
需要費	
法定福利費	200,000
旅費・交通費	50,000
家賃	2,898,000
光熱水道費	700,000
営繕費	500,000
賃借料	325,080
通信費	500,000
文具印刷費	200,000
消耗品費	500,000
雑費	400,000
東海地震対策費	1,000,000
25周年記念事業準備金	2,000,000
(管理費合計)	14,473,080
当期支出合計 (C)	19,453,080
当期収支差額 (A) - (C)	△ 6,439,800
次期繰越 (B) - (C)	6,439,800

## グラフで見る名古屋いのちの電話

### ○ 24年間の受信件数の推移（1985年7月～2008年12月）

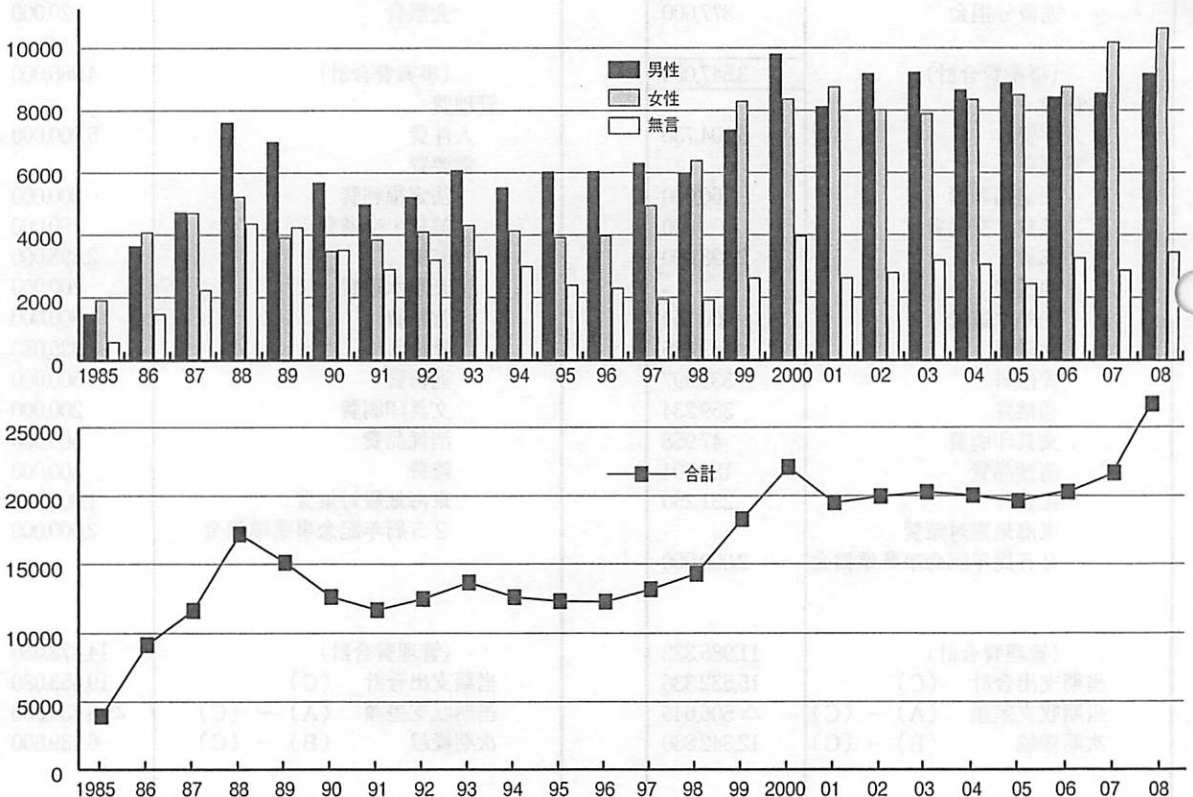
1985年の開局からの受信件数は、381,008件でした（うち無言電話68,864件を含む）。2008年度の1日あたりの平均受信件数は71件になります。

2001年度から始まりました厚生労働省の後援による自殺予防のフリーダイヤルは8年目を迎えました。毎月10日になり、2008年は12回行いました。850件のうち自殺志向の電話は208件で、全体の24.5%でした。

### ○ 24年間の受信件数（1985年～2008年）

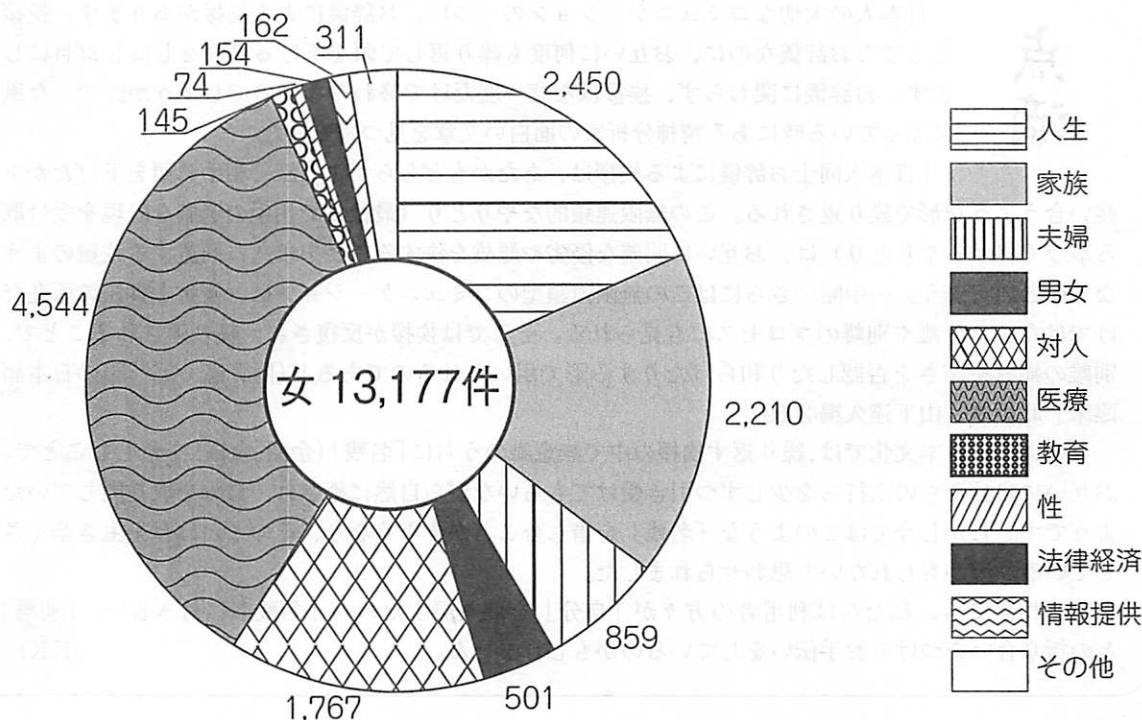
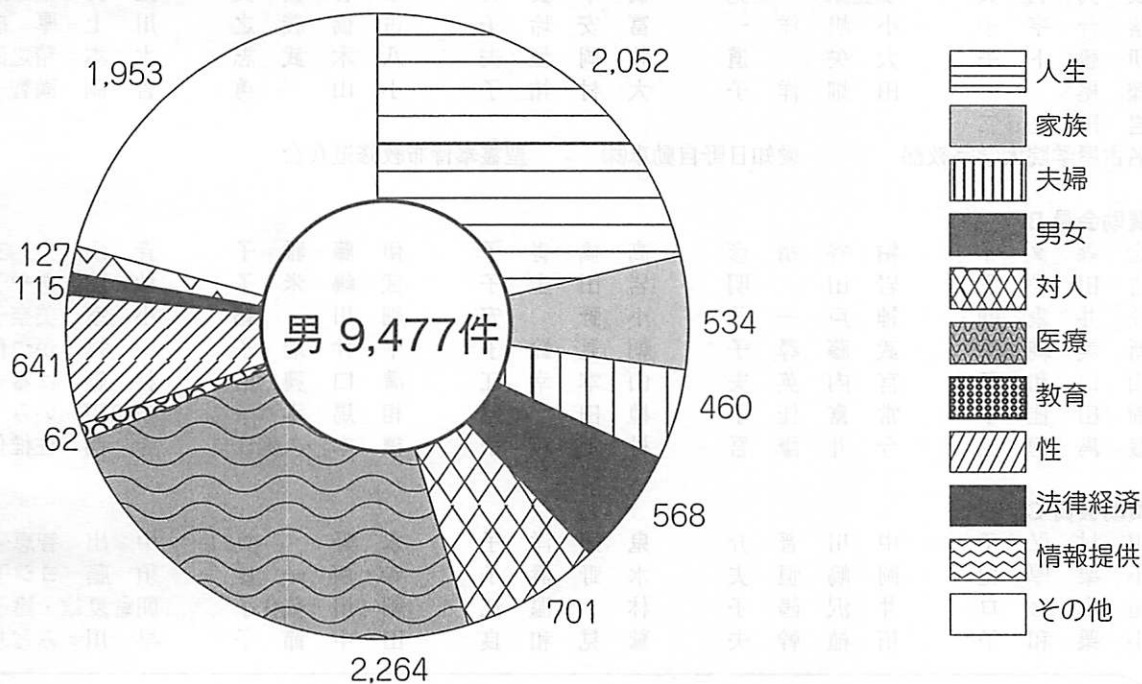
	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997
男性	1465	3626	4721	7603	6979	5670	4970	5210	6069	5514	6025	6038	6301
女性	1905	4071	4700	5224	3905	3469	3836	4094	4306	4125	3911	3966	4940
無言	573	1466	2227	4356	4232	3504	2882	3189	3306	2981	2385	2285	1942
合計	3943	9163	11648	17183	15116	12643	11688	12493	13681	12620	12321	12289	13183

	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	合計
男性	6301	5989	7364	9800	8114	9173	9215	8647	8992	8519	8799	9477	164280
女性	4940	6392	8289	8357	8749	8010	7885	8348	8546	8743	10916	13177	149864
無言	1942	1913	2610	3962	2617	2783	3184	3051	2223	3090	2792	3310	66864
合計	13183	14294	18263	22119	19480	19966	20284	20046	19761	20352	22507	25964	381008



# 2008年 相談内容別受信件数（1月～12月）（除く無言電話）

		人生	家族	夫婦	男女	対人	医療	教育	性	法律経済	情報提供	その他	総計
総計	男	2,052	534	460	568	701	2,264	62	641	115	127	1,953	9,477
	女	2,450	2,210	859	501	1,767	4,544	145	74	154	162	311	13,177
	計	4,502	2,744	1,319	1,069	2,468	6,808	207	715	269	289	2,264	22,654



## ご援助ありがとうございます

2009年2月より5月末日までに下記の方々から暖かいご支援をいただきました。一同深く感謝いたしますと共にご報告申し上げます。(順不同・敬称略)

なお、上記期間内に何度もご寄付くださった方もお名前は1回にさせていただきます。

社会福祉法人愛知のちの電話協会  
理事長 野村 純一  
財務委員会

### 賛助会員 A

渡 辺 邦 俊	塩 田	保 覚	今 枝	靖 夫	梨 本	將 代	太 田	喜久雄
長 岡 利 貞	小笠原	橋 本	橋 本	良 男	水 谷	宣 美	望 月	千年成
落 合 亨 子	小 嶋 洋	富 安	富 安	玲 子	古 橋	義 之	川 上	厚 成
伊 藤 ト モ	大 矢 道	牧 岡	牧 岡	恒 夫	八 木	武 志	木 本	精之助
檜 尾 一	田 畑 洋	大 村	大 村	祐 子	小 山	勇	吉 岡	満智子
岩 田 亮 二								

名古屋学院大学宗教部      愛知日野自動車(株)      聖靈奉侍布教修道女会

### 賛助会員 B

金 森 夕 イ	柏 谷 靖 彦	高 橋 青 子	伊 藤 雅 子	青 山 玄
吉 田 愛 子	岩 田 明 子	高 岩 圭 子	武 嶋 米 子	秋 田 あや子
笠 井 康 助	神 戸 一 子	小 野 宏 子	細 川 拓 子	小 室 美奈子
新 美 純 子	武 藤 尋 子	朝 見 鈴 子	平 井 瑞 子	中 村 かつ代
山 口 和 子	宮 内 英 夫	山 本 幸 江	溝 井 興 治	杉 籐 はる子
前 田 佳 子	常 富 佳 子	植 田 望 子	相 馬 幸 子	多和田 いみ子
豊 島 徳 三	今 井 謙 吾	村 上 茂 子	榎 本 久美江	寺 西 佐稚代

### 賛助会員 C

川 村 弘 子	中 川 晋 介	鬼 頭 洋 子	水 野 真	中 出 智恵子
小 栗 厚 紀	岡 嶋 恒 夫	水 野 霽 子	寺 西 一 雄	須 藤 ヨシ子
植 木 ヒ ロ	井 沢 陽 子	林 温 江	細 川 美代子	朝倉夏雄・建子
小 栗 和 子	柘 植 幹 夫	鷺 見 和 良	田 中 節 子	早 川 みどり

## 点 滴

日本人の大切なコミュニケーションの一つに、お辞儀による挨拶があります。挨拶としてのお辞儀なのに、お互いに何度も繰り返して頭を下げる場面をしばしば目にします。お辞儀に関わらず、挨拶はなぜ一度だけで終わらないのでしょうか。そんな風に思っている時にある精神分析家の面白い文章を見つけました。

「日本人同士お辞儀による挨拶は、あたかもどちらがより深く相手に頭を下げたかを競い合うような形で繰り返される。この無限連鎖的なやりとり（最後まで相手の過剰な表現を受け取る事なく終わるやりとり）は、お互いに明確な優劣や雌雄を決することを永久に回避する装置のようなものといえよう。…中略…さらにはこの無限連鎖型のコミュニケーションは、優劣や責任の所在だけではなく、分離や別離のプロセスにも見られる。そこでは挨拶が反復され、繰り返されることで、別離の痛みや辛さを否認したり和らげたりする形で用いられるのである」（岡野憲一郎「罪の日本語臨床」北山修、山下達久編 2009）

このように日本文化では、繰り返す挨拶の中で無意識のうちに「名残」（余韻、余情）を惜しむことで、お互いに自分たちの気持ちを少しずつ引き受けてもらいながら自然に癒され、自分を取り戻していたようです。しかし今ではこのような「名残」を惜しむことが少なくなり、そのことは今を生き辛くさせている一因かもしれないと思わせられました。

電話相談でも、私たちは利用者の方々が「自分」を取り戻すための「名残」に付き合い、「別離」との折り合いをつけるお手伝いをしているのかもしれない。（K.K.）

岩田 鑛 一	山田 敦 代	藤 垣 鉞 雄	荻 原 里 美	青 島 美代子
竹内 宏 子	小川 浩 雄	神 谷 將 弘	近 藤 直 枝	山 下 タカ子
山崎 京 子	樋 口 次 雄	中 谷 塩 子	寺 田 弘 子	鈴 村 美登里

日本福音ルーテル復活教会婦人会

**寄付金**

香 取 信 子	久 野 泰 子	岡 田 和 子	見 木 靖 美	伊 藤 恵美子
小 川 邦 泰	稲 垣 吉 孝	榎 本 和 子	井 沢 陽 子	加 藤 みゆき
加 藤 倫 子	島 しづ子	中 川 鋪 子	梶 原 壽 子	浅 野 恵美子
新 美 純 子	石 川 摠 輔	高 橋 孝 子	鏡 味 泰 雄	秋 田 あや子
林 小夜子	野 崎 雅 子	福 原 満 江	阪 田 敏 子	西 山 えつこ
永 井 洋 子	近 藤 多 美	河 村 清 子	小 枝 清 子	石 田 朗 子
永 鈴 木 智	服 部 昭 子	藤 野 宏 之	小 関 口 純 一	宮 田 喜代子
牧 智恵子	粟 田 昌 子	太 田 立 男	鈴 木 栄 子	宮 田 可 壽子
宮 里 及 子	江 崎 好 美	吉 田 加代子		

カトリック南山教会	名古屋神召キリスト教会	興徳寺 佐久間敬止	東名サニタリー(株)
(株)オチアイネクス	(株)みどり造園	ホーユー(株)	崇覚寺
学校法人金城学院	宗教法人建中寺	興禅寺	鳴海修道院
日本キリスト教団名古屋北教会社会奉仕委員会	黒金化成(株)	栄冠幼稚園	光ヶ丘女子高等学校
カトリック布池教会	幼き聖マリア修道会	(株)オティックス	(株)中外
愛知教会女性の会		(株)ホンダコーポレーション	

**歳末募金・クリスマス募金**

金森タイ	カトリック小牧教会	日本キリスト教団中京教会
東山カトリック教会	日本キリスト教団名古屋教会	日本基督教団南山教会

**法人賛助**

イリヤ化学(株)	武田機工(株)	杉山工業(株)	大須観音宝生院	(株)榎屋
新明工業(株)	トヨタ紡織(株)	社団法人名古屋中村法人会		立松モールド工業(株)
(株)青山製作所	アサダ(株)	中央精機(株)	崇覚寺	
日本基督教団金城教会福祉社会委員会				

**助成金**

社会福祉法人東海テレビ福祉文化事業団	愛知県共同募金
--------------------	---------

**賛助会員を募集しています**

**ご協力をお願いします**

いつも資金ボランティアとして会費やご寄付をいただきありがとうございます。心からお礼申し上げます。会員の皆様の倍旧のご支援と会員増加の運動にもお力添えを賜りますようお願いいたします。社会福祉法人として寄付金の税法上優遇措置が受けられます。誠に失礼ですが振込票を同封させていただきます。ご利用くだされば幸いです。

- (1) 法人会員 年間5万円・10万円・20万円
- (2) 賛助会員(年間1口) A 10,000円 B 5,000円 C 3,000円
- (3) 一般寄付はご自由な金額で結構です
- (4) 夏期・年末寄付

口 座 名 社会福祉法人愛知いのちの電話協会  
 口 座 番 号 三菱東京UFJ銀行大津町支店(普) 477029  
 郵便振替口座 00810-8-53758

お問い合わせ…社会福祉法人愛知いのちの電話協会 名古屋いのちの電話事務局 ☎ 971-5181

うん

つらかったろうなあ

くるしかったろうなあ

うん うん

だれにもわかって

もらえずになあ

どんなにか

つらかったろう

うん うん

泣くにも泣けず

つらかったろう

くるしかったろう

うん うん

相田みつを著

「いのちいっぱい」

ダイヤモンド社刊より

#### 〔友の会だより〕

「友の会」では、去る4月29日に2009年度の総会を開催し、和やかな懇親のうちに活動の状況を確認し合い、今年度も会員の増強をはかり、奉仕活動の拡大につとめることを申し合わせました。

いのちの電話は相談員を始め有志の方々のさまざまなかたちの奉仕により形成され推進されていますので、私たち「友の会」は必要に応じてこれらの方々を支え、その奉仕活動を応援する働きにつとめたいと願っています。そして一人でも多くと、仲間を募っています。お問い合わせ、ご提言は随時下記役員または事務局にお寄せ下さい。皆様のさらに積極的な参加をお持ちしています。

会長 木本精之助 副会長 金森タイ 書記 太田智恵子 会計 中川幸子

監事 常富佳子 連絡員 菅原美智子、吉田愛子、斉藤延枝

#### 〔編集後記〕

特集「なぜ死んではいけないのですか?・・・」は好評をもって迎えられていますが、シリーズ2回目は「リメンバー名古屋自死遺族の会」の花井幸二さんをお願い致しました。花井さんは遺族の方々の悲しみや苦しみ、社会の偏見などを肉声をもって語りつつ、「死の否定と生への強制」は全く逆な意味を持ちかねないと話しています。「苦しみを共有する私たちがいる」というメッセージは、添えられた相田みつをさんの優しい詩と共に私たちの心のなかで響き合うように感じます。

この号は2008年度の事業報告をさせていただきました。どうぞご意見ご感想をお聞かせ下さい。

この「名古屋いのちの電話」の機関紙は、共同募金配分金によって作成されたものです。

社会福祉法人愛知いのちの電話協会  
名古屋いのちの電話

2009年夏

〒461-8691 名古屋東郵便局 私書箱第257号  
事務局 ☎ 052-971-5181  
相談電話 ☎ 052-971-4343  
携帯相談電話 NTTドコモ東海「#9556」

2009年7月1日発行  
発行人 野村 純一  
編集人 広報委員会